

## 2024年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： データ処理特論Ⅱ	
担当教員名： 大矢 奈美	
<p>授業科目概要：</p> <p>この授業は、社会調査のうち主に「量的調査」を扱う。アンケート調査を中心とした量的調査は、政策の立案やマーケティングに有益なデータを得るための手段だが、企画・設計が正しく行われていなければ、偏った情報になってしまう。また、偏りのない情報が得られたとしても、それを分析する知識が無ければ誤った結論を導いてしまうことにもなりかねない。</p> <p>本授業では調査手法について概説した後、社会調査に必要とされる手続きについても取り上げる。データの集計および分析については、パソコンを用いた実習を交えて学ぶこととする。</p>	
<p>履修上の留意事項：</p> <p><u>受講希望者は必ず事前にメールで問い合わせること。前提科目として、統計学特論（最低でも学部の統計学）を履修していること。</u></p> <p><u>履修証明プログラム受講生は、データ処理特論Ⅰを除く春学期必修科目を履修済みの上で受講すること。</u></p> <p>テキストの正式な指定は、受講生の研究計画を確認してからおこなう。</p>	
教科書・参考書（参考文献）	
教科書	書名：
書名：社会調査法入門（第2版）	著者／編者：
著者／編者：盛山和夫	出版社：
出版社：有斐閣	出版年：
出版年：2005年	
参考書1	書名：
書名：入門・社会調査法（第3版）	著者／編者：
著者／編者：轟・杉野	出版社：
出版社：法律文化社	出版年：
出版年：2017年	
参考書2	書名：
書名：	著者／編者：
著者／編者：	出版社：
出版社：	出版年：
出版年：	
<p>評価方法及び判定基準：</p> <p>授業内の課題（平常点）と最終レポートで評価する。</p> <p>Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Fは60点未満とする。</p>	
<p>授業目標及び進め方：</p> <p>問題意識を明確にし、それを検証するためのデータをどのように入手すれば良いのか判断して調査の設計ができること。また統計学の知識を使いながら得られたデータの分析をおこない、問題意識への回答を得ることができるようになることが目標である。</p> <p>このため、適宜、実習を交えながら進める。</p>	

第1回	<p>テーマ：調査の方法について考える</p> <p>内 容：社会調査は何のためにおこなうのか</p> <p>教科書／参考書：教科書・第1章</p>
第2回	<p>テーマ：量的調査と質的調査</p> <p>内 容：両者の特徴</p> <p>教科書／参考書：教科書・第2章</p>
第3回	<p>テーマ：調査の進め方</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第3章</p>
第4回	<p>テーマ：調査の企画</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第4章</p>
第5回	<p>テーマ：ワーディング</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第5章</p>
第6回	<p>テーマ：調査票の設計（1）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第6章</p>
第7回	<p>テーマ：調査票の設計（2）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第6章</p>
第8回	<p>テーマ：標本抽出の考え方（1）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第7章</p>
第9回	<p>テーマ：標本抽出の考え方（2）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第7章</p>
第10回	<p>テーマ：調査の実施とデータファイルの作成（1）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第8章</p>
第11回	<p>テーマ：調査の実施とデータファイルの作成（2）</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第8章</p>
第12回	<p>テーマ：記述統計量</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第9章</p>
第13回	<p>テーマ：検定</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第10章および11章</p>
第14回	<p>テーマ：クロス表と相関係数</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第12章</p>
第15回	<p>テーマ：回帰分析</p> <p>内 容：</p> <p>教科書／参考書：教科書・第13章</p>